原木ステーション整備へ

搬出効率化、販売力高める

諏訪森林組合

中間土場を整備する諏訪森林組合の原木ステーション整備予定地

諏訪森林組合（茅野市）は今夏、伐採した木材を集積、分別する「原木ステーション」（中間土場）を同市玉川の鉢巻線沿いの市有林地を賃借して整備する。木材を効率的に搬出する環境を整え、森林整備で搬出した原木の販売力を高めるとともに、これまで森林に残してきた枝ややぶなどの林地残材を有効活用する。本格稼働は8月となる見通し。

中間土場は伐採した丸太や木の枝などを運び込み、分別して製材工場に輸送するまでの間、一時保管する場所。一定量の木材をまとめて運搬できるため、輸送コストが抑えられる。伐採した木材を山中から直接製材工場に運ぶよりも効率的で安定的な供給が可能となり、販路拡大も期待できる。

用地は約3000平方㍍。木材加工と木質バイオマス発電で構成する官民連携事業「信州F・POWERプロジェクト」の拠点がある塩尻市に隣接する諏訪地域の立地を生かしつつ、県外にも搬出しやすい同地に整備することにした。塩尻市のバイオマス発電施設向けだけでなく、将来的には地元や周辺地域のバイオマスボイラーなどへの供給源となることも目指す。

事業費は1199万円でこのうち1168万円を県の地域森林資源利活用システム構築支援事業の補助金を活用する。現在、整備予定地内の樹木の伐採が完了し、今後は造成工事を進める。

同組合の柿澤肇業務課長は「諏訪地域は木材、木質バイオマスの素材の供給エリアとしてポテンシャルが高い。立地的な特性を生かし、資源を最大限活用するとともに将来は原木のチップ化など原木の地産地消に向けた構想を考えていきたい」としている。

（野村知秀）

大昔調

市民の寄付で建てられ、築60年を超える岡屋考古館

きにわたり閉館が続いたが、現在は冬季を除いて月1回ほど開館。築60年を超えた建物は天井の剥落や雨漏りなど老朽化が著しく、市民に現状を知ってもらい、保存の機運を高めていく考え。

考古館、メンバーの坂間雄司さんが調査会の取り組みをテーマに紹介する。諏訪市文化財専門審議委員の二村悟さん＝神奈川県＝が、発表した論文に基づいて同館の建築学的意義について講演する。

広島から伝える戦後80年ツアーを開催します

日報ツーリスト主催　6月3日（火）～5日（木）

伝えたい　戦後80年　過去から未来

長野日報社は、戦後80年の節目に合わせた特別企画「広島から伝える戦後80年ツアー」（日報ツーリスト主催）を6月3日（火）～5日（木）に実施します。1945年8月6日広島への原爆投下で同年末までに約14万人が死亡。その後も多くの人々が後遺症や差別などに苦しみました。ツアーは原爆被害の当事者や、その実情を直接知る人が少なくなっていく中、被爆者や語り部の声、遺構や資料に直接触れ、悲惨な歴史や平和の尊さを学ぶ目的で企画しました。

初日はＪＲ塩尻駅を午前7時14分に出発し昼に広島着。被爆体験の伝承講話に耳を傾けます。２日目は広島平和記念公園を巡り、広島平和記念資料館の見学も。３日目は世界最大の戦艦「大和」をテーマにした「大和ミュージアムサテライト」（呉市）に足を運びます。戦艦「大和」の最後の艦長は辰野町出身の有賀幸作でした。ツアーには広島県出身の本紙記者も同行・取材し、解説もします。

参加人員15人程度。旅行代金は約11万円。問い合わ

横河川堤防　桜　開花宣

開花が始まった岡谷市横河川の堤防の桜

岡谷市は9日、横河川堤防の桜が開花したと宣言した。昨年と同日で、近年では最速だった一昨年（3月29日）より10日ほど遅い開花。川沿いに約4㌔にわたって桜がトンネルのように咲くことで知られる名所で、市商業観光課で

００本が植えら
口近くの基準木
いたことを市環
て開花日として
３年は３月29日、
８日、21年は３月
同課によると例年
１週間ほどで満開
う。

市は５日から
川桜祭り」期間に
６時30分～10時
堀区と小井川区
プしている。今年
央東線鉄橋付近の
ポットライトも
応えを増してい